京都CF!を創りたい人、募集中！

急募

京の大人的英知、注入マガジン【シー・エフ】

現在、「京都 CF!」では、編集制作のアシスタントをして下さる方を募集しています。「京都CF!」が好きな方、京の街を遊びまわるのが好きな方、原稿を書きたい方、雑誌編集に興味がある方、ぜひご応募下さい。
私たちと一緒に「京都CF!」を創ってみませんか？

まずは郵送にて**「履歴書」**をお送り下さい。

●問い合わせ先

京都CF! 編集部アシスタント募集係
担当：坂東（ばんどう）
〒604-8134
京都市中京区六角通烏丸東入ル 大輝六角ビル2F
E-mail:bando@m21.or.jp

※今回の募集は**社員募集ではありません**のでご了承ください。

※今回**電話でのご応募・ご質問は受け付けておりません**のでご了承ください。

京都CF! スタブロコレクション始動!!

京都CF! information

京都CF! のスタッフブログが始まりました。誌面では紹介できなかった取材の裏話や、スタッフが街で見つけてきたオモロイもん、そして日々の奮闘ぶりをブログで紹介していきます。知られざる京都CF! スタッフの意外な一面が垣間見られるかも…。というわけで、京都CF! のスタッフブログへのアクセスは下記の京都CF! ホームページからどうぞ！

http://www.kyotocf.com/

Kyoto Car-Moratorium
～京都人のクルマ知らず～

Opening Lap

粋人の街には、特別なモラルが必要

碁盤の目のような大路小路と狭い一方通行の街、京都。この街で最も有効な移動手段は自転車だと言われる。だが現代社会において自動車はやはり必須であり、京都も例外ではない。むしろ細い道だからこそ、走らせる我々には、他都市にはないモラルが必要だ。

ところが今、都大路を走る車に京都人の粋を感じることが少ない。古来「車（馬車・人力車）」と言えば粋人の乗り物であったのに、そうあるべき京都人が、意外と車の楽しみ方を知らないのでは？ そんな焦燥感から、京都には華道や茶道のような「粋に車を転がす術＝車道」が必要だと思い至った。

車屋に生を受けた私は、日本のモータリゼーションの成長と数多くの車、そして車に関わる「泣き笑い」を見てきた。中には残念な勘違いが悲劇を生み、せっかくのカーライフがスポイルされていると思えるケースもあった。その理由は、専門誌でもネットでも、ほとんどが右へ倣えの「金さえかければヨシ」という即物的な情報が生む無個性ではないか。つまり、価値ある情報が少ないのである。

そこで、京都の車の売り手として、また自動車整備士として遭遇したエピソードが、あなたの車に対する審美眼に磨きをかけ、ひいてはカーライフを今よりも豊かにする一助となれば幸い。そう考えて紙幅をいただいたのが当コーナーである。

では、いよいよエンジンスタートです。よろしくお願いいたします。

© QUATRE ILLUSTRATION

中島 崇（なかじま・たかし）

'68年生。自称「車選びの達人」。創業昭和38年、北区は紫野の自動車屋・㈱中島商会の二代目社長にして「安くていい車」を探すスペシャリスト。かつて自動車オークションの取引で2000万円をドブに捨て、大失敗の連続から学んだノウハウをまとめた無料小冊子「その車に手を出すな！」も好評。中島流「車道家元」を目指す京都人。

林的映画三昧

イラストと文 ハヤシチサコ

ハヤシチサコ・無類の映画好きのイラストレーターにしてグラフィックデザイナー。
「Club Fame」時代には、彼女のデザインが表紙を飾ったこともアリ。編集部の熱望により本誌への登場と相成った。